慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.12 (1966. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19661201-0152

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

本号には、思想史に関係する論稿が集中した感じであるが、別段特集とすることを意図したものではなく、偶然である。それにしても本誌の伝統ともいうべき、思想史学説史の研究が現在もかくも盛んであることを、われわれは高くはこってよいであろう。

というのも、近来科学主義の名のもとに、科学としての内容の形式性のみが重要視され、科学をなりたたせる人間的基盤についての反省が忘られ勝ちだからである。このことは、最近の「方法」論議にもあてはめることができるのであって、豊富な思想内容が無惨にも切りおとされて論理の形骸のみが残されるという、まことに憂うべき事態にたち至っている。この事情が、人類の永い歴史のなかでつちかわれてきた思想を科学からいたずらに区別することになってきている。

このような情勢にあっては、思想と科学との有機的連関を積極的にとらえうるような、方法論こそ要求されてしかるべきであると考えられる。しかし、これこそ、社会科学者の不断の緊張を誘うがごとき、きわめて苦難に充ちた方途であることもたしかなのである。それゆえにこそ、われわれに取り組むに十分に値いする課題であるともいいえよう。そして、伝統ある本誌が、かかる課題へ有効な土俵を提供しうるものたらしめるべく、努力しなければならないであろう。

（飯田裕康）

昭和四十一年十二月一日発行

© 三田学会雑誌 第五十九巻 第十二号

定価 二〇〇円（送料一二円）

編集兼発行人 東京都港区芝三田二丁目二番地 慶應義塾経済学会 代表者 遊部久蔵 電話三田（453）二一一一 振替口座番号 東京四四〇五六

印刷者 東京都港区芝三田豊岡町八番地 図書印刷株式会社 木山康夫

半ヵ年予約購読料（送料共） 一二〇〇円
一ヵ年 〃 〃 二四〇〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

発売所 東京都高輪局区内三田綱町一番地 慶應通信 振替口座番号 東京一五五四九七